

第5回

湯崎知事と 「ひろしまの未来を語る」 (大竹市)

と き 令和3年4月9日(水)

ところ 大竹会館(アゼリアおおたけ)

目次頁

開会	2
知事ビジョン説明	2
参加者①	5
参加者②	6
参加者③	8
参加者④	9
参加者⑤	10
参加者⑥	12
市長コメント	14
フリートーク	16
閉会	19

広島県

開 会

司 会： 皆様お待たせしました。

ただいまから「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」意見交換会「ひろしまの未来を語る in 大竹」を開催いたします。

はじめに、本日御参加の皆様を湯崎知事の右手の方から順に紹介いたします。

高橋央史さんです、河野大輔さんです、中野友博さんです、河内信治さんです、中野より子さんです、梶山恵さんです。

また、本日は大竹市長、入山欣郎様、広島県議会議員、狭戸尾浩様にも御出席いただいております。

お忙しい中、誠にありがとうございます。

この会の模様は You Tube でライブ配信を行っております。

通信回線の状況によりましては画像が乱れることもございますので御承知ください。

また、県のフェイスブックを通じて、ライブ配信を御覧の皆様からの御意見や御感想を募集しておりますので、フェイスブックを御利用の皆様は、ぜひ広島県の公式アカウントにコメントいただければと思います。

意見交換

司 会： 続きまして、本日意見交換いただくテーマでございます「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の説明、その後意見交換に入りますが、ここからは湯崎知事に進行役をお願いいたします。

湯 崎 知 事： それでは皆さんこんばんは。今日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

また、今日はこのアゼリア大竹、これはできたばかりの素晴らしい施設で設営をいただきまして、大竹市の皆様には本当に感謝を申し上げたいと思います。

このコロナで、なかなか市町に出かける機会がないというか、減ってしまって大変残念なのですが、皆様の御協力のおかげで今少し広島県も落ち着いていますので、こうやって開催することができました。

改めて皆さんに感謝を申し上げたいと思います。

広島県では実は昨年、新しい総合計画を策定したのです。

これは 10 年後の目指す姿と実現の方向性を示したものでありまして、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」と呼んでおります。

これは去年の 10 月に策定しましたが、今年度この 4 月から、ビジョンに基づいて新たな取り組みを始めようというものでございます。

このビジョンによる新たな広島県づくりを皆さんと一緒に進めていきたいと考えておりまして、そのために各県民の皆様の率直な御意見をお伺いして、意見交換をさせていただくということで、今後の施策の展開につなげていきたいと考えているところでございます。

それでは早速ですが、はじめに私からビジョンのポイントについて、簡単に御説明をさせていただきますと思います。

まずビジョンの背景なのですが、こういったさまざまな状況がございます。

人口減少とか少子高齢化、こういったことも従来からいわれていますが、これは我々リアルにこういった時代にもう入っているということ。

それからグローバル社会というのも、ますます複雑化していますし、プレーヤも増えてきているということもあります。

それからデジタル化が非常に強く、今日本でも意識されるようにもなりました。

そういう中でも格差社会、コロナであぶり出されたともいわれていますが、こういったことであるとか、災害が増えている、そしてもちろんコロナ、こういったようなことが背景としてございます。

そういう中でビジョンの作り方というか考え方なのですが、現状というのがあります。

我々が 30 年後にどんなふうになっていきたいかを定めまして、30 年後にそうなるためには、10 年後にはどうなっていないといけないだろうということを議論いたしまして、その 10 年後の目指す姿に向けて、それではどんなことをやるのかを、このビジョンの中で書いているということなんです。

30年後というのは、本当にある意味でいうと誰にも予測がつかないことですが、ただ社会でいろいろな、また後で出てくるのですが、いろいろな分野において、こんなふうになっていたいよねということが描くことができますので、少し抽象的な姿になるのですが30年後、10年後というともう少し具体的に考えることができますので、30年を踏まえて10年後に具体的にどういうふうになっていくのかを考えているわけでありまして。

ビジョンの基本理念が「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現ということで、これは実は前のビジョンと同じであります。

目指す姿として県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」によって夢や希望に「挑戦」をしています。

そして仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現を目指していこうと、こういうふうに定めております。

これもまた後でいろいろと御説明しますが、いろいろな不安を県民の皆さんもお持ちなのではないかと思えます。

将来のこともあるし、今の足元のコロナのこともあります。

こういった不安をできるだけ軽くしていった、安心して暮らしていけるということが土台にある。それから誇りは広島県が持っている強みであるとか、あるいは県民の皆さんお一人お一人のさまざまなことに対する自信であるとか、そういったことが原動力となって、みずからの夢であるとか、こういうふうになりたいとか、あるいはこういうことをしたいといったような夢、希望に挑戦できる、そういった姿を目指していこうということです。

それから仕事も暮らしも。里もまちも。これはそれぞれの欲張りなライフスタイルというところに結びついているのですが、欲張りなライフスタイルというのは、実はこれも今のビジョンから引き継いでいるものでありまして、もともとは仕事も暮らしも欲張りなライフスタイルといっていまして、今よくワークライフバランスといわれていますが、仕事をするために暮らしは犠牲にするのか、暮らしを優先するために仕事は諦めるのかとか、そういうふう二者択一のようにいわれがちなのですが、そういうことではなくて仕事もしっかり自分の希望ができるし、暮らしも自分の希望、夢がかなうことができる、まさに欲張りだという。

そういうことで欲張りなライフスタイルといっているわけですが、里もまちもというのも、町にあっても、あるいは田舎にあっても、どこにいても自分の希望、夢が実現できるといったところを目指していこうということで、ますます欲張りになっているということでもあります。

今申し上げたように、安心の土台、それから誇りの高まりによって夢や希望に挑戦するということがポイントとしてあるわけですが、その他にも、この2と3というポイントがありますが、「適散・適集社会」のフロントランナーとございますが、広島の特徴は、広島市が120万都市でかなり大きな都市があるわけですが、一方で少し足を伸ばすと、すぐ近くに自然がある。都市と自然が近いということがあります。

大竹なども町があり、ちょっと山の方に行くと素晴らしい自然がある。まさにこういった環境を生かしていこうと、今コロナでとにかく都市に密になっていくということが、それで本当にいいのかという、そういう見直しが進んでいるのではないかと思います。

むしろ適切な分散、こういったことが価値があるのではないかと認識され直していません。

一方で、かといって集中だとか集的みたいなものがいらぬのかという、そういうわけでもなくて、やはりいろいろな活動、イノベーションを起こしていくというためにも、あるいはすごく楽しみ、エンターテイメントとか、そういった観点からも一定の集中というのがやはり必要だろうと。

ただそれが過度になってはいけないということで、適切な分散であり、適切な集中これが必要であろうと考えています。

我々の置かれている環境からいって、適散・適集社会を次の時代に求められている社会の在り方だと思いますが、広島はまさにそういう地理的な条件が整っているのです、そのフロントランナーになっていこうということです。

それから全ての施策を貫く3つの視点として、デジタルトランスフォーメーションの推進、それから広島のブランドを強化していこうと、生涯にわたる人材育成を進めていく、こういったことが入っております。

それぞれ少しあるのですが、今健康の問題とか年金の問題あるいは医療介護、所得の

問題そういったことで県民の皆さん不安である、この不安を安心につなげていくということをやっていくことが必要だと考えています。

そのためにはイノベーションであるとか、あるいはセーフティネットの構築だとか、もちろん人材育成、地域共生社会といったようなことを推進する、こういったことによって安心を作ると考えています。

それから誇りですね。

安心の土台を作った上で、作りながらというか並行していくわけですが、我々が持っている独自の強み、瀬戸内海であるとか中国山地の豊かな自然、あるいはそこからもたらされるおいしい食であるとか、我々が持っている本当に伝統だとか文化も含めて誇りになるものたくさんあると思います。

そういったものを磨いていくことによって誇りを高めていく、それがその次のピラミッドになっていくわけですが、そういったことをベースにして挑戦をしていこうということです。

この挑戦ができるような環境になっていく、そして実際に一步一步前を踏み出していくことによって、欲張りなライフスタイルを実現していこうという考えです。

それから里もまちもというところ、これについてはどこに住んでいても挑戦できる、先ほど申し上げましたが、都市についてはやはり県全体の発展をけん引していくような魅力ある都市を作っていかなければいけませんし、また分散を生かした自然豊かで潤いのある中山間地域、まさに里山だとか里海だとかいわれるようなところ、こういったところもしっかりと支えていく。

それからその中間にあるような大竹などは、まさにそういうところだと思いますが、利便性の高い集約型の町を作っていく、そしてしっかりと広島だとか、あるいはその周辺の自然豊かなところをつなぐようなところとして、そうしてももちろん町自体が自立したまちとして、しっかりと発展していくような、そういう地域づくりを進めていこうと考えています。

そして、「適散・適集社会」これも先ほど少し申し上げましたように、いわゆる三密といったような生活だとかビジネスの在り方、それが本当にどんどん追求されて、極端なのが東京だとか大阪ですが、そういった在り方は見直しが今図られています。

東京一極集中というのも非常にリスクが高い、あるいはこれまでデジタルの活用が遅れていたのではないかとということがあったわけですが、それがこの今コロナ禍で見直しをされて、やはり開放的で快適な環境を作っていかなければいけないのではないかと、あるいは、そもそもデジタルを使えば、みんなが集まるという密になる必要がないじゃないかと、なんで俺たちこんなに苦労して通勤して、毎日1時間30分とかぎゅうぎゅうの電車に乗ってやっていたのだということが、必要ないのではないかとということです。

一方でそうはいっても、いろいろな価値を生み出す知の集合だとか集積も必要なこと、それで分散と集中ということが必要なのですが、それを先ほども申し上げたような広島の状況を見ますと、まさに適散・適集という既にその措置があるではないかというところが広島の特徴でありまして、それをデジタルだとか、あるいはもっとイノベーションの力を強めていくことで実現できるのではないかと考えています。

次の全ての施策を貫く3つの視点ということで、そういったことを実現するために重要なこととして、デジタルトランスフォーメーションの推進、ひろしまブランドの強化、そして人材育成があると考えております。

デジタル技術は、さまざまな課題を解決していく上で今必要なことですし、ひろしまブランドは特に広島の誇りであるとか、あるいは広島の強みを伸ばしていく上で、非常に重要なものであります。

人というのは、全てを支える土台でありますから、あらゆる分野、あらゆる場面において人というのが大事だということ。

それでは具体的にどんなことですかということですが、領域としては17の領域に分けて、いろいろと考えています。

それぞれいろいろな目標が立っていきまして、例えば経済面でいえば県が取り組んで新たに付加価値を生むものとして5,000億円くらい目指していこうとか、あるいは大学進学時における転出超過を0にしていこうとか、こういったような目標を立てています。

これはいろいろとあるわけです。

それぞれの分野を見てみますと、子供・子育ての分野では目指す姿として、全ての家庭を妊娠期から子育て期まで切れ目なく見守り支援するネウボラの拠点、全市町に設

置されている。

子育て家庭に関わる全ての医療機関や保育所、幼稚園、地域子育て支援拠点、学校などと連携して、子供たちを多面的・継続的に見守っている。

それによって子供たちに必要な支援が行きわたっている。

こういった姿、これが 10 年後の姿として描いて、そのための取り組みや方向性だとか、いわゆる KPI という指標のようなもの、こういったものを定めているわけです。

あるいは教育の中ではこんなことですね、知識ベースの学びではなくてコンピテンシーの育成を目指した主体的な学びを促す教育活動、これを推進する学びの変革が定着しています。

子供たちがこれからの社会で活躍するために必要な資質能力が着実に身についています。

これは広島県、学びの変革というものを 7、8 年進めています、今国でも最近新しい社会で考えさせるという教科書が出てきたということが最近ニュースになっていますが、そういったことを広島県先取りして進めているのです。

これがしっかりと定着することを目指そうということです。

あるいは観光であれば、ひろしまブランド、瀬戸内ブランドの認知が高まっているということで、具体的な観光客数の目標、令和 7 年度には 8,400 万人といった観光客に来ていただくというものを定めているということです。

こういったことがそれぞれの分野で、17 の分野あるいはそれを更に細かく区切って定められているわけですが、いずれにしてもこの最後はここですね、県内のどこに住んでいても、県民の皆様お一人お一人が夢や希望に挑戦できる広島県づくり。

もちろんこれを実現するのは、決して行政ではないのです。

行政が実現するのではなくて、これは実は県民の皆様、個人であったり、あるいは企業であったり、もちろん NPO だとかそういった団体もありますが、そういった活動の総体が広島県を作っているわけですので、行政はそれを実現できるように後押しをしていくということで、そういう意味では行政と県民の皆様が一体となって、これを作っていくかなければいけないと考えているところでありまして、そのためにも今日のような会を開かせていただいているということでございます。

以上でございまして、これを踏まえてこれから意見交換をさせていただきたいと思えます。

それでは早速、意見交換に入りたいと思うのですが、初めに進め方として、参加者の皆様お一人お一人から、まず 5 分程度御意見や御提案をお話いただきたいと思えます。

皆様のご発言が一巡したところで、残りの時間で意見交換をしまいたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

発言の順番は既にお願ひしていると思えますので、今日は座ったままでお話いただければと思えますので、よろしくお願いいたします。

それではまずは一番バッター、高橋さんからお願いできますでしょうか。

参加者①

高 橋： トップバッターを務めさせていただきます。大竹青年会議所の高橋と申します。

湯崎知事、入山市長、また本日御参加の皆様どうぞよろしくお願いいたします。

この度のテーマであります広島県が掲げる「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の中から私が取り上げたいテーマはこちら教育でございます。

広島県の教育が目指す 10 年後の姿に、これからの社会で求められる普遍的で汎用性の高いスキルを学び身に付けられるとありますが、私はそのスキルの 1 つがこちらの新規事業立案能力であると思っております。

自ら物事を企画し実行する力、これから人口減少、少子高齢化社会を迎えるにあたり、さまざまな社会問題がより顕著に現れてくる時代に入ってきました。

今まさに既成概念にとらわれない柔軟な発想を持った事業を展開するイノベーターの存在が求められています。

教育現場において、その人材育成が急務だと思っております。

学校卒業後の進路である進学、就職に加えて起業や経営者として事業を引き継ぐ事業承継といった選択を取る子供が広島に多く生まれるような教育が普及すれば面白い 10 年後が待っているのではないのでしょうか。

その面白い 10 年後というのがこちらです。

アメリカのシリコンバレー、中国の深圳（しんせん）といえは言わずと知れた時代の最先端の企業が集まっています。

日本版シリコンバレーといえは広島と言われるぐらいのインパクトが必要です。

ぜひ広島、とりわけ大竹という地で起業する青年が増え、ここから世界的な経営者が育つ環境づくりを今から初めたら面白いのではないのでしょうか。

この狭い地域からそんな人材が出るのかという疑問もあるかもしれませんが、萩の松下村塾の例を見れば不可能ではないと思っています。

また、ひろしまビジョン、教育が目指す姿の実現に向けた取り組みの方法にはキャリア教育、職業教育の推進、子供たちの将来的な社会的、職業的自立に向けた各学校段階を通じた体系的、系統的なキャリア教育、地域や産業界と連携した職業教育の充実に取り組むとあります。

これがまさに実現できれば、子供たちの進路に起業や事業承継という選択肢が増えると思っています。

そこで、この取組を具体的に考えてみました。

地域や産業界と連携した職業訓練という言葉にピッタリの団体がございます。

それが、私が所属しております大竹青年会議所です。

青年会議所には、先代から事業を承継した方や一代で起業した方など 20 才から 40 才までの幅広い青年経済人が揃っています。

入山市長も青年会議所の先輩であります。

そういった方が学校教育の中で自らの体験や経営学、更に起業を疑似体験できる実学をとおして、子供たちと関わることでひろしまビジョンにある、これからの社会に求められる普遍的で汎用性の高い知識、スキルを学び身に付けることができ、将来起業したい、親の家業を継ぎたいといった子供たちが多く生まれることが期待できるのではないのでしょうか。

その将来的な効果として、活躍する企業の増加から税収がアップする。

また、昨今話題になっている企業の後継者不足の問題の解消、そして青年会議所会員の増加から経営者同士のイノベーションなど幅広い派生効果が期待できると思っています。

今回は起業に挑戦するものが多く増え、また挑戦しやすい社会の実現への土台として、まず教育に焦点を当ててみました。

我が町、大竹市では市内の商業活性化を図るため、商業者が連携したグループが提案し、実施する事業に対し市が助成金を交付する、大竹商業者チャレンジ事業というものがありません。

地域資源を活用した新商品の開発に関する事業、後継者育成に関する事業、創業、起業支援に関する事業などに市が助成金を交付するというものですが、私の事務所もこの助成金を利用して青年会議所のなかまにも協力いただき、子供起業塾なるものを 1 年間させていただきました。

若者の意識の変革から起業の道を選択するものが増え、更には将来こういった助成金を活用し幅広く事業が展開されることで、ひろしまビジョンの 1 つが実現したと言えるのではないのでしょうか。

そういうところを、私からのひろしまビジョンに対する意見とさせていただきます。

最後になりますが、本日はこのような発言の機会を設けさせていただきまして、誠にありがとうございました。

この後の意見交換も楽しみにしております。

湯崎知事： 高橋さん、ありがとうございました。

教育と、それから起業家精神、そういったところをリンクして強化していくことが必要ではないかと、それが夢の実現につながると、そういったお話であったと思います。

ありがとうございました。

続いて河野さん、お願いできますでしょうか。

参加者②

河野： よろしくお願いいいたします。

はじめに、本日はこのような場にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。着座にて失礼いたします。

早速ですが私の意見なのですが、まずは「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」というところから、安心の土台という点に着目させていただきました。

私は大竹市でリフォーム業を営んでおりまして、その中で耐震改修工事であるとか、補助金をもちろん利用させていただいたりしてやっていく中で、やはりお客様の安心と安全を考える機会が多く、その中でつながりとして、安心の土台ということを考えさせていただきました。

そこで県民・市民を脅かす事象って、どういうものが一番最たるものか考えた場合に、やはり災害というところで、17の施策領域の中から防災・減災をテーマとして取り上げさせていただいて、意見を考えさせていただきました。

なぜ防災なのかということになるのですが、調べさせていただく中で、この表ですが広島県の主要な災害の一覧になっております。

私が着目しましたのが平成11年以降、県内で4年ほどのスパンで大きめの災害が発生しているなど、もしくはもう少し短いスパンで発生しているということが読み取れました。

記憶に新しい豪雨災害ですね、こちらの大竹市でも被害を受けている。

実際に私も現場を見に行ったこともございます。

やはり人ごとではないと感じさせていただいたのが要因でございます。

その中で自治体等で防災、災害対応に携わる方はどういうことを考えられているのかなというところを調べていきましたところ、こういったアンケートが出てきたのですが、やはり災害時の初動対応が迅速にできない。

刻一刻と変化する状況を把握することは難しいという声が多い、そういったところを問題視されているということが分かります。

そこで考えてきたのですが、私の意見としまして市民防災訓練の日と災害情報共有の形を作るというところで、既存で取り組まれているところはあると思うのですが、それを押し進めていく必要性が、すごくあるのではないかとということで提案をさせていただいております。

内容としましては市民防災訓練の日ですが、こちら2つに分かれておりまして、避難訓練を行う日と防災を考える日という形で2つ考えさせていただいております。

対象は、まず避難訓練を行う日というのは、各企業・一般市民という形で日程を決めて一斉に、ちょっと強制力を持った形で、避難訓練を実施することが大事なのではないかと思って考えさせていただきました。

災害の規模が大きくなれば大きくなるほど、一斉に動く人間の数も多くなってまいります。

そう考えるとやはり市のような単位で実際に避難訓練を実施することで、よりよいフィードバックであるとか、私などでいうと例えば現場で仕事をしている間とか、お客さんと打ち合わせをしているとき、時間になったら避難訓練を行うことで、より実際に則した、そして実のある避難訓練ができるのではないかと考えました。

また、2つ目に防災を考える日、これは対象は市民という形で書かせていただいたのですが、日程を決めて自治会ごとに避難場所の確認や研修を行うということですが、こちらはなぜ自治会ごとなのかということですが、やはり自分の近しい方々、近隣の方々というところは同じような場所に避難する形が多いと思いますので、こういった方々で日頃どこに避難するであるとか、何を持って逃げるであるとか、どういう段階で動くか、そういったところと、そういう情報の共有をしていくこととやはり横のつながり、何か実際に起きたときに、お互い助け合うことが容易になってくることを考えて、こういった日を持ったかどうかと考えています。

続きまして災害情報共有ということですが、こちらは SNS やテレビ、ラジオなど近年多様な媒体がございます。

年代によって偏りというものが出やすくなったりすると思います。

SNS は高齢者の方がなかなか利用しにくいとか、特に大竹市は高齢化が進んでおりますので、そういった部分もフォローできるような情報の提供の形というのも考える必要があるのかなと思いました。

例えば、国で今推進されて、実施されているところもあると思うのですが、Lアラートですね、この部分のこれの大竹市内バージョンということを考えて行くと、皆さんに情報が偏りなく移っていくのではないかと考えました。

もう1つは、やはり情報ということになってくると、個人で情報発信が容易になっ

てきたことで、本当に情報の真偽というものが問題になってきているところがございます。

それなのでいわゆるメディアリテラシーというところになるのですが、これの研修の強化をしていく必要があると考えました。

今まで述べさせていただきましたこの意見なのですが、結局何が大事なのかなというところなのですが、まず一番に市民の意識が大事だと思います。

日頃の防災・減災というところへの意識向上、それから避難場所・準備・防災知識というものの市民の共有と、2つ目が災害情報の共有、正しい情報をどう正確に迅速に届けるのか、また正しい情報をどう的確に市民が得ていくのかというところを重要視して、考えていく必要があるのかなと考えました。

以上が私の意見となります。

最後に本日はこのような時間を取っていただいて誠にありがとうございました。

広島県大竹市が安心という土台を築いて、たくさんの笑顔と元気に満ちあふれた輝く町となることを記念して私の意見とさせていただきます。

ありがとうございました。

湯崎知事： ありがとうございました。

災害があっても安心というのも何か変ですが、災害があってもしっかりと対応できることによって普段災害がないときには、それはそれほど心配する必要なく暮らすことができるということ、そしてもちろん命を守っていくことが非常に大事だということだと思いますが、その点について発表いただきまして本当にありがとうございました。

それでは引き続きまして、中野さんをお願いしたいと思います。

参加者③

中野(友)： ありがとうございます。よろしく願いいたします。

このような貴重な機会をいただきありがとうございます。

大竹の若者代表として元気よく発表させていただこうと思いますので、よろしく願いいたします。

私は今回、持続可能なまちづくりというテーマを選びました。

持続可能なまちづくりを行うためには、自分のふるさとを好きになってもらい、自慢できる町にすることが最重要だと思います。

その中で御提案させていただくアイディアは、おおたけブランドコミュニケーション戦略室です。

広島県庁広報課の皆様が、ひろしまブランドコミュニケーションチームとして行動されていますが、大竹バージョンのアイディアをお持ちしました。

「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」のテーマを推進していくためには、各自治体単位で市民一人一人がふるさとの魅力を知り尽くすことから始まると思います。

自分の町に何があるかを知ることで安心し、自分の町の人を知ることで誇りを持って、自分の町の強みを知ることで挑戦することができると思います。

その結果ふるさとに魅力が生まれ、愛着を持った市民が増え、持続可能なまちづくりを行うことで、存続していく地域となるはずです。

昨年、新型コロナウイルス感染症の影響により、我々、大竹青年会議所が企画立案した飲食店応援プロジェクト「おおたけテイクアウト マナーアッププロジェクト」があります。

大竹市や商工会議所、病院組合など官民一体の広報活動を行ったときに感じたのが、情報の伝わりにくさです。

どこに情報発信すればいいのか、誰と連携を取ればいいのか、どう市民の皆様へ伝えたらいいのか、地域団体として活動するものとして伝えることの大変さを感じました。

ここに聞けば何でも分かる、ここに行けば誰かとおつながれる、ここに行けば何かを生み出せる、ふるさとの全ての情報が集まる窓口があればいいと思いました。

それがおおたけブランドコミュニケーション戦略室です。

この場所で情報という素材が整理され、情報発信できる横のつながりが存在すれば、市民一人一人がいろいろなところから情報に触れる機会が増えます。

特に集める情報として重要なのが、地域で活動する市民活動の情報です。

大竹市には2015年、日本一の公民館となった玖波公民館があります。

玖波公民館は、公民館職員の河内さんが地域に住まう地域ジンと呼ばれる地域住民たちと、地域の企業や学校、民間団体を巻き込み、くばコレや学びのカフェなど型にとられない取り組みをしています。

しかしこの活動やイベントの認知がまだまだ進んでいません。

玖波公民館のように地域の住民を巻き込み、新しいアイデアを出して実践行動しているノウハウは、大竹市で活動を行う上でかけがえのない財産になるはずです。

後世に残していくためにも、こういった市民活動や民間団体の情報を残していくべきだと考えます。

大竹市で収集されたヒト・モノ・コトに関する情報をデジタルアーカイブとして整理し、誰でも閲覧できるようにします。

その情報を基に民間団体や企業間で情報共有することで横のつながりが生まれ、市民に新たな企画を情報発信することで大竹市の魅力がアップするはずです。

つまり持続可能なまちづくりを行うためには、情報という素材を集め整理し、アイデアを継続的に生み出す仕組みを作ることで新しい魅力が生まれ、情報発信することで、ふるさと大竹を好きになってもらうことができます。

持続可能なまちづくりを行うために、はふるさとの情報を知り尽くすことから始まると思います。

各自治体が輝くことで広島県の魅力もアップし、ふるさと広島に対して愛着を持つことができるはずです。

そのためには各自治体に情報収集に特化し、ヒト・モノ・コトをつなぐハブとなる、おおたけブランドコミュニケーション戦略室のような部署が必要だと考えます。

これを基に大竹が魅力いっぱいの町になり、ひいては広島県全体の魅力アップにつながる、そういった考えを持っております。以上です。

貴重な機会をいただきまして、ありがとうございました。

湯崎知事： 中野さんありがとうございました。

まちづくりには情報が必要であるということで、まさに今の時代は情報社会と言われて随分時間が経ちますが、それをリアルに実践していくことで、まちづくりにつながっていくというお話だったかと思います。

どうもありがとうございます。

それでは続きまして、河内さんお願いをいたします。

参加者④

河内： よろしく申し上げます。

本日このような機会に出席できて本当に光栄でございます。ただあまりこういった場に慣れていませんので、発表もつたない部分があるかと思うのですが、そこはご容赦いただければと思います。

私は河内信治と申します。

今年で 39 歳になるのですが、大竹生まれ大竹育ちで、今も大竹に住んでいまして、大竹の会社に勤務しております。

40 年近く大竹にいる私がこの度、湯崎知事が掲げられている「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」について拝見させていただきまして、その中に私自身がふるさとに対して強い思いを持っている言葉がありまして、それがこの誇りというものになります。

やはり自分自身がふるさとを誇れるものと思わなければ、そこに明るい未来は来ないと思いますし、その上で私は持続可能なまちづくりをテーマに今日は考えてきました。

私も青年会議所の組織で今活動しているのですが、青年会議所会員というのは皆同じ目標の基、活動していまして、それは明るい豊かな社会の実現というものですが、この明るい豊かな社会の実現というのは、パッと聞いただけではすごく抽象的で、答えがないものだと思うのです。

人それぞれ考えも違うと思うのですが、私が思っている明るい豊かな社会というのは、やはりふるさと、あるいは今住んでいるところに誇りを持てることだと考えています。

私は今 40 年近く大竹に住んでいるのですが、本当にこの大竹が大好きで、なぜかという交通の利便性もよくて、コンビニ、スーパーもあって、病院もあって治安もよくて子育てもすごくしやすい、本当のこれ以上の市はあるのかなと思っっているくらい大竹が大好きなのです。

仕事で西日本は大体、各県、各市に行ったのですが、やはり大竹に帰ってくるとホッとするのですよね。

本当に大竹いいところだなと自信を持って今言えます。

ただその大竹にも私たち日常生活していたら、なかなか感じる事のない人口減少であったり、少子高齢化と解決すべき課題があるのも事実だと思います。

そこで17+1というのを考えてきたのですが、この17というのは湯崎知事が掲げられている広島全体の施策領域でありまして、そしてこの1が各地域のビジョンではないかと思っております。

広島県を持続可能な県にするためには、やはりどこも取り残さずに、各地域が持続可能な状態でなければならないと思っています。

ただ同じ県内といえども、各地域を取り巻く環境というのは異なっていると思われまして、取り組むパターンも違うと思うので、この17の施策領域は県全体を支える土台であって、持続可能な県になるためには、最後の1ピースというのは各地域が持っているのではないかなと思っています。

その上で各地域の課題を誰が生み出してどう取り組むのか、それはやはり青年世代ではないかなと、20代から30代の青年世代が自分たちで考えて、主体的に取り組むべきなのではないかなと思っています。

やはり青年世代というのは、このふるさとの未来を責任を持って担っていかねばいけない存在であります。

しっかりと今の町の現状を分析して、その上で自分たちは何をすべきなのか、そしてどういうふうに行うかを実行して、実行をした結果どうだったか、これはまちづくりに対してだけではなくて、ビジネスにも必要な考え方だと思うのですが、重要なことは行政主導ではなくて、やはり自分たちで考えることが重要だと思っています。

あくまで行政はアイデアを募る企画を出していただいたり、資金面の援助であったり、若者たちが輝けるステージを作っていただいて、後は若者が考えてやるということが必要なのではないかなと思っています。

こういうことは大竹だけではなくて各地域で行われていけば、湯崎知事が掲げる「施策を貫く3つの視点」というところも出てくるのではないかなと思います。

やはり青年世代が活発に活動していけば経済も回ると思いますが、新たな考えも出てくると思います。

そしてブランドという意味では青年世代が躍動する社会というのは実現すれば何にも負けないブランドになると思います。

活気ある若者がいっぱいいる町というのは、すごく元気のある町だと思いますし、そういった存在がいれば、いろいろな新たなブランドが生まれてくるのではないかなと思います。

人材育成についても、やはりふるさとの課題を自分たちで考えることで、経済人としても生涯に必要なものが身につくのではないかと考えております。

まとめになります。私が思う持続可能なまちづくりとは、未来を担う青年世代がふるさとを思い、躍動する社会を各地域が作り上げていくことではないかと考えています。

それが各地域の抱える課題を解決していき、最後の1ピースが埋まっていくことで、県全体が持続可能な広島県になるのではないかと考えております。

以上となっております。ご清聴ありがとうございました。

湯崎知事： 河内さん、ありがとうございました。

持続可能なまちづくりのためには、若い世代が自ら考えて、そして行動していくと、それが大きな原動力になっていくのではないかなということですね。

17に加えて1つと、17+1というのも何かいい感じがして、ありがとうございます。それでは引き続きまして、中野より子さんをお願いをいたしたいと思っております。

参加者⑤

中野(よ)： はじめまして、中野より子と申します。

人生初めてのプレゼンです。棒読みになることをお許しください。

今回は行ってみたい町大竹、持続可能なまちづくりということで、温めていた思いをお伝えできたらと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

還暦を過ぎた今、持続可能なまちづくりとは何かと考えたときに、これから住み続ける子供たちに、自分の町を好きになってもらう、興味を持ってもらうまちづくりが必要だと感じました。

そこでこちらを御覧ください。桜です。

桜のりんとした美しさに心を奪われる方は多いと思います。

今年も大竹では亀居城をはじめ、多くの桜が咲き楽しませていただきました。

私はこの桜が行ってみたい町に変われるきっかけになるのではないかと思います。

そこで満開の桜をイメージしながら聞いてみてください。

三菱レイヨンから大竹工業団地、清掃センターから栄橋に続く海側の道路へと桜が続きます。

そして、今度新しくできる大竹駅周辺も西の玄関として一帯を桜で埋め尽くします。

また、晴海臨海公園の海側に桜のトンネルを作ります。

工場夜景に桜のライトアップが加わり、大竹を訪れた人だけではなく、広島、宮島、小方港を結ぶことで海から楽しむ桜ルートができあがり、広島県としての観光資源にも成長すると思います。

そして、植樹には資金が必要です。

桜の木に寄附金額を設定し個人、企業に向け募集します。

ふるさと納税や今回の大竹駅再生プロジェクトのような、クラウドファンディングも活用します。

寄付をいただいた方には、桜に名前のプレートがかけられる桜の里親になることができます。記念の植樹も募ります。

自然の中にある桜や京都の桜とは異なり、ビルだらけの東京に桜がよく似合うのと同じイメージです。

工場の町というイメージから、工場夜景とともに桜の名所が変わります。

もちろん植えるだけではなく、管理もプロと合わせて市民も加わります。

例えば、市民が管理や清掃をすることで、行政サービスが受けられる仕組みづくりも面白いと思います。

そして、桜をきっかけに文化が生まれ、デザイン性のある建物と合わせて桜、緑を理想的な空間にするために、桜をデザインする専門チームが必要になってくると思います。

例えば、新設される、おがたこども園の周りにこんな風景が広がっているとします。

地元で散歩したくなる場所、洗練されたおしゃれな場所、本物を学べたり開放的な図書館など、そういう場所があるというのはワクワクしてきます。

ワクワクする場所があると健康な高齢者が増え、それは増え続ける医療費削減にもなるでしょう。

病院ではなく、そうだあの図書館に行ってみようとか、桜を見て元気をもらおうとなればいいなと思います。

生まれ変わろうとする取り組みは、今からの時代を担う子供たちにとっても目標になり感性が磨かれ、どんどん挑戦していこうと思える町になります。

ということは自分の町が好きになり誇りに思う町になる。

そうして人が集まり、住んでみたくなる豊かな町になり雇用も生まれます。

市民から見える一番分かりやすい形を作っていくのは、市政に参加している実感を味わうことができ、それはあらゆる興味につながりいい循環が生まれ、持続可能なまちづくりにつながっていくのではないのでしょうか。

桜の花言葉は「豊かな教育・純潔・優美」などがあります。

これから生まれる文化と緑と桜の花、町、大竹にぴったりだと思えます。

本物の美しさは時代を越え、脈々と引き継がれていきます。

コロナが終息し、10年後の大竹が今よりもっと好きになり、誇れるすてきな町になっていることを願って、本日のプレゼンを終わりたいと思います。

素人的な発想でつたない説明、ご清聴いただきありがとうございました。

またこんな経験をさせていただく機会をいただきましたこと、本当に感謝いたします。

ありがとうございました。

湯崎知事： ありがとうございました。

人生はじめてのプレゼンとおっしゃいましたが、とてもそのようには思えないようなすてきなスライドも含めて、具体的でありありがとうございました。

聞いていてワクワクするような感じでした。

それではお待たせいたしました。
最後になりますが梶山さんお願いいたします。

参加者⑥

梶 山： よろしくお願ひいたします。

私は目で見える資料はないのですが、口頭で発言させていただきます。

私は子供・子育てと働き方改革、多様な主体の活躍ということをテーマに選択いたします。

まず子供・子育ての部分についてですが、子供や子育ては次世代を担う子供たちの可能性をより大きなものにするために、非常に重要なことだと考えています。

私自信2児の母であり、フルタイムで働くことを選択しており、その中で感じる不満や、それらをどのようにして解決しているか、同様の環境にいる方々とそれらの気持ちの共有や、その気持ちをこういった場で代弁することを私は心掛けています。

御縁あって私は大竹市子供子育て委員や、まちづくり基本構想会議に出席させていただいており、直接意見を伝えることができるという機会をいただいております。

そのような場で率直な意見を伝えることが、先ほど述べたとおり気持ちの代弁というところになります。

私ができることは非常に小さいですが、そのような小規模なコミュニティを少しずつ形成し、その小さなコミュニティ同士が何らかのつながりを持てるように、行政や地域が働きかけてもらえると、孤立感などが減少するのではないかと考えます。

核家族が当然のようになっていった現代において、そのような過剰なまでの見守りシステムの構築という部分は、若い世代にとっては脱孤立感、脱孤独感につながっていくと考えています。

もう1つのテーマである、働き方の部分についてですが、全ての世代の多様な人材が不安なく働くことができるということが、今後の未来において必須の項目だと考えています。

昨今、特に女性の活躍推進が叫ばれていますが、私と同様フルタイム勤務者は家事・育児との両立に非常に疲弊していると思います。

一方この1年間でテレワークが大きく浸透し、通勤などの負担が軽減した感覚が大いにあります。

しかしそれも勤務形態や職種に大きく左右されているとも感じます。

また残念ながら男性は目一杯働く、女性は仕事をしていても家事も担当するという風潮は、まだまだ根深くあると実感せざるを得ません。

私自身、家族の中での役割として基本的に家庭の家事に関する大部分を担っており、またそれらができない日というのも実際にありますが、そういった日に責任を感じたりしてしまうこともしばしばあります。

ですが目指すべき姿としては、もしかするとそのような責任を感じる必要はないのかもしれないかもしれません。

このような固定観念を変えていくことが必要と考え、そのためにはメディアや行政を通じて、考え方や価値が変化しているということを発信し続ける必要があると感じます。

また外国人労働者が増加する今日では、彼らにとっても安心して働ける環境づくり、言語の不安や周囲とのコミュニケーションの相互理解も必要になってくるのではないかと考えています。

一市民の稚拙な考えではありますが、このような機会をいただいたことを非常に感謝しております。

ありがとうございました。

湯 崎 知 事： 梶山さん、ありがとうございました。

子供・子育て世代の声は非常に大切ですし、バイアスというところですね、今日もそういう意味ではこうやって出かけておられて、ご家族のことができないという、そこに責任を感じるのではなくて、まさにこういうところで貢献していただいていることに、やはり誇りを感じていただく、そういうふうになるといいなと思います。

ありがとうございました。

今、皆様からいろいろな御意見をいただきました。本当にありがとうございます。

高橋さんからは、教育というテーマでしたが、そのテーマには起業であるとかイノベ

ーションであるとか、そういったことが含まれるのではないかと思います。

それで実は、まさに広島県が進めています、学びの変革ですね。

この学びの変革というのは、自ら考える、そして知識を貯めるという知識を持つということではなくて、その知識を使って何かをすることができるようになる。そういうことを目指しているのです。

それは実はただ単によく見られる学校教育で勉強するということだけではなくて、そのために必要な例えばコミュニケーションの力とか、あるいは他の人と、一言でいうとうまくやっていく力であるとか、あるいは粘り強い、粘り強さとか諦めないで頑張る力とか、いわゆる非認知能力といわれるようなもの、そういったことも非常に大事でありまして、これは実は幼児期からやらないと駄目だということで、広島県では学びの変革というのは幼児期、乳幼児期、もっと言うとネウボラなどを通じて、子供が生まれる前からやろうということで、取り組んでいるのです。

そういったところから、特に幼稚園とか保育園の時代に粘り強さとか、いわゆる非認知能力といわれるものが培われるといわれますので、そういったところから実は、起業家教育だとか始まっているのだというのが広島県の考え方です。

そういうことが進むことによって、イノベーションであるとか、あるいはしっかりとしたキャリアを自ら切り開いていくことにつながっていくと考えて、取り組みをしています。

それから河野さんは、防災のことについてお話をいただきましたが、安心の土台として防災・減災というのは本当に重要なことであります。

これもお話の中で市民の皆さんの意識ということがありました。

これも教育を通じて進めていくというのがまずベースとしてあって、それから実際に災害が起きるとどうということ起きるのか、どうということになるのかということ、情報もしっかりと提供していく。

防災教育ということが土台にあるのだろうと思いますし、それから情報を共有していくことが、行動のベースには非常に重要であります。

適切な情報を我々自信も行政自信も、しっかりと集めて、そしてそれを皆さんと共有していくということが重要で、大竹市でもいろいろと携帯電話のシステムを使って、災害情報の提供をされていると思いますが、更に今デジタルを使って、より分かりやすく、また的確に提供していくということも重要なので、ここでもデジタルが大きな役割を果たすのではないかと考えております。

そして中野さんが、やはり情報の重要性ですね、この大竹に関するあらゆる情報をまとめて、そしてそれをまた共有していくことによって、誇りにつながっているということだったと思います。

本当にこれは誇りだと思うのです。

見逃している素晴らしいものというのは、たくさんあるのではないかと思います、そういったものをまず見出すということと、それからそれを磨いていくということですよ。

そういったことが持続可能なまちづくりということになるとと思いますし、中野さんお母さんね、何か共通したことをおっしゃっているなど今思いましたが、町を好きになる、ほとんど誇りだと思いますが、それもブランドであったりとか、いろいろな言い方ができるかもしれませんが、それによって本当に町が発展して良くなっていくということだろうと思います。

そういうことで我々ブランドというの、ブランド全てに貫く視点としておいているのは、やはり誇りを作っていく上でブランド、ブランドというのいろいろな意味がありますが、やはり皆さんに認知をしていただくということも非常に重要ですし、その前に我々自身が、それを認知しているということが重要なので、これをインナーブランディングとかいって、広島県でも今、広島県としてのブランドステートメントとか広島ってこんなところだよと、我々自身がどういうふうに認知をしてほしいかという部分と、それから我々自身がどういうふうに認知するかという部分、これは両方やっていくかなければいけないということで、今年からそれについて、いろいろな展開をしていくことにしています。

それから河内さんもこの誇りについてお話をいただきまして、先ほど学びの変革のことを申し上げましたが、この知識ではなくて実践をするということが、学びの変革の非常に大きなテーマであります。

そういう意味で、学びの変革を進めていくことによって、やはり若い世代の皆さんが、おっしゃっていただいたような自ら考えて、そうして行動していく。

考えるだけでは駄目ですね、行動だけでもやはり駄目だと思うのです。

考えるし行動もする、両方が組み合わせあって変わっていくというか、本当に変化が生まれていくということだと思いますが、ここで教育が重要な要素になるのだろうなと思いますし、誇りというのは、皆さんおっしゃっていただいています重要なことだと思います。

中野さんは非常に具体的に御提案をいただいたわけですが、これも誇りづくり、どういうふうにしたら我々の町を好きになれるか、こういった議論、非常に大事なことですし、冒頭にこのいわゆる集積した広島市のような町、それから里山・里海と呼ばれるような、田舎という怒られますが、非常に自然豊かなところ。

それから大竹のような非常にコンパクトで暮らしやすい便利だし、かといって非常にきゅうきゅうしたところでもない。自然にも近い。

そういったところがまた美しい町になるとか、よりおしゃれになるとか、若い人が気に入ってくれるような、たまに行ってワクワクするような楽しい町になる、より定着も進むということだと思うので、我々が目指すそれぞれの町、すごい都会、それから田舎、大竹のような町、それぞれの良さを引き出して作っていくことを、具体的に示していただいたのではないかと思います。

それから梶山さんも、子供・子育て、それから働き方改革。これはやはり、つながっていることだと思います。

指摘していただいて、これについては我々も意識改革、これは意識の問題なので、意識が変われば変わりますが、ですがこれが、なかなか変わらないというところが一番難しいなと我々も感じているところです。

過剰なまでに見守っていくということについては、今我々が取り組んでいる地域共生社会というのがありまして、特にならずに我々の社会というのは基本的に地域のみんがお互いに支え合うのを止めようとやってきた社会なのです。

その代わりに学校で勉強しているし、医療は病院でやるし、お葬式は葬儀屋さんがやってくれる。

昔は全部自分たちでやっていたわけですね。

葬儀は近所の人がみんな集まって、家でやったりお寺でやったりしていたのが、もう葬儀屋さんが全部やってくれるわけだし、少し生活に困ったような人たちは、周りの人たちが少し手を差し伸べてくれる。

あるいは子供たちにしても、近所の子供たちがみんな一緒になって、誰か家で仕事をしている人がいますから、そういう人の家の庭とかで、子供たちが遊んでいるという。

そういうものが全部バラバラになって保育園に行くし、そういう社会からお互いに見守るといことが、すごく難しい社会になっているのです。そして干渉されたくない。

ですが今そういう中で行政の提供するサービスだとか、事業者が提供するサービスだけだと間に落ちこちてしまうものはたくさん出てきていて、それで引きこもりの問題だとかゴミ屋敷の問題だとか、そういうことがたくさんあふれるようになってきてしまっているのですね。

ですから地域共生社会をもう一回目指そうというのは、非常に重要なテーマでございまして、ただ意識の問題、干渉されたくないわけですから、そこに干渉していくという、これも非常に難しいことなのですが、実は大きなテーマで、取り組もうとしていることであります。

そういった意識の問題というのが、この働き方だとか男性、女性の役割分担というところにもつながっているのかなと思っていて、これは県庁として難しい、簡単なようで難しいこととして、これからもこのビジョンの中でしっかりと取り組んでいきたいなと思ってるところであります。

皆様、本当に素晴らしいご指摘というか問題意識、あるいはそれに対するこういう取り組みが必要ではないかということ、まさに我々も共感するところでもあります。

今回、本当にこういう機会に御出席をいただいてありがとうございます。

これまでの御意見御提案を踏まえて、入山市長何かコメント、御意見ございましたらお願いできますでしょうか。

入山市長： はじめに湯崎知事、今日はこのような素晴らしい機会を作っていただきまして、大変ありがとうございます。

今、皆様にひろしまビジョンと我が町大竹につきまして、多くの貴重な御意見をいただきまして、感謝を申し上げます。

大竹市では県と同じように、30年先、50年先を見通して大竹市まちづくり基本構想を策定いたしました。

そして、10年間の基本計画も策定をいたしております。

ぜひ機会があったら見ていただきたいと思います。

市のまちづくりに当たっては、国や県の理念、方針を理解して共用することが大切だと思っております。

常でないこの世の中、先の見えないこの世の中でございます。

絶対的な幸せや安心は望むことはできません。

それでも大竹の市民の皆様は幸せを感じながら、安全に生きがいを感じながら充実した人生を歩んでいただけるように、行政運営をしていかなければならないと考えております。

高橋さんがおっしゃられた起業家の町大竹、大竹をチャンス、機会の多い町、つまり大竹にすれば生計の糧を得る機会がある、自由度が高いそういう町にしていく。

インフラの整備、技術、情報の集積、そして何よりも大切なことは人を作っていく、人を教育してということ、そしてお互いが信頼し協力できるそういう仲間を作り上げていくこと。

今御提案をいただいたこと、そのことの大切さを感じているところでございます。

ありがとうございます。

河野さんには、防災・減災について話をしてくださいました。

大竹の町は昭和26年に、先ほど写していただきましたが、ルース台風という小瀬川が氾濫し木野川が氾濫して大変な被害を受けました。

以来先輩方は、小瀬川ダムを作り弥栄ダムを作り、そして市街地の堤防は全部コンクリートで固めて、危ないところの急傾斜地は95%対策をしてくれ、そして砂防えん堤もほぼ危険な河川については作りあげてくれております。

更にこのことはやり続けなければなりません。

これまで70年間でざっと計算すると、約2,000億円のお金をこれにつぎ込んでくれる大変安全な町だということ、このことは先輩方に感謝して誇りに思っていきたいと思っております。

これからは手をつけられなかった、内水氾濫の問題に手をつけていかなければいけないと考えております。

中野さん、河内さん、まず大竹が輝くことで県の魅力も上がってくると、そのようにおっしゃいました。

大竹に誇れるものがあるということを探し、そしてそれを大切にしていって、それをまた情報発信していくというお話をいただきました。

どうも大竹の市民の皆様は大変謙虚で、大竹はつまらん、うちの町は何もない、我が町は駄目だと、このようによく言われておりました。

どうか大竹に生まれて良かった、ここに生まれて良かったと胸を張って言える、そして胸を張ってお互いが言い合えるような、そういう情報の発信の仕方、大変大切に思っています。御提案いただいたこと大変ありがたく思っております。

私は「5up! (ファイブアップ)」という番組があって、大竹に取材に来てくれました。

大竹の宝は何ですかと問われました。私は即座に大竹の人ですと答えさせていただきました。

本当の大竹に愛着を持ってくださる人たち、こういう方が多くなってくだされれば、ますますこの町良くなるのかなと、我が町が良くなれば広島県良くなるなと思えます。

ありがとうございます。

中野さん大竹に住みたい、行ってみたいそういう町にしたい。具体的な提案いただきました。

晴海臨海公園には梅の林もできました。

並木道はイチョウ、そしてオオシマザクラを植えました。

今度は自分の夢ですが、あのうっそうとした貝塚をどけて、あそこに桜並木を作りたいなと考えております。

財源まで具体的な提案をいただきまして、本当にありがとうございます。

やはり美しい町というのは、心にゆとりを感じる町になろうかと思えます。
一緒になって作り上げていきたいと思えます。

梶山さん、大竹にとって何よりも大切なのは、人と人とのつながり、今知事がおっしゃられました、人と人とのつながりがなくても生きていかれるような世の中を構築してしまっただけです。

そのことが大変難しい世の中になってきて、それをもう一回、人と人がつながり助け合い、お互いが信頼して手をつなぎ合う社会をどうやって作っていくか、このことは市民の皆さんと、みんなで作り上げていかなければいけない大きな問題だと思います。

そしてこれができたらこの大竹の町、本当にここに住みたい、住んでよかった、来てよかったと、そういう町になるのだらうと思えます。御提案いただきまして本当にありがとうございます。

生もうと思えば子供を2人でも3人でも、生み育てることができるといふ町をみんなで作っていったらと思えます。

今日は皆さん方、本当にいい御意見をいただきました。大変参考になります。

本当にありがとうございます。

また知事こういう機会ありがとうございます。

湯崎知事： ありがとうございます。

それでは、ここから後 15 分あまりですが、フリートキングとさせていただきたいのですが、今の他の方のご発言を受けて、入山市長あるいは私のものも含めて何か御意見とか気になったこととかありましたら、また共有していただければと思えますがいかがでしょうか。

それでは中野友博さん。

中野(友)： ありがとうございます。

やはり今回こういった機会をいただくことで、一生懸命、情報と向き合うことができたというのは、非常に大きな学びだったなと思えます。

もちろん広島県知事が湯崎知事というのは存じ上げていたのですが、こういったビジョンとか、こういう思いを持っていらっしゃるというのが、今日こういう場をいただいて、しっかり調べて学ばせていただいて、誇りを持って広島県のリーダーってすごいのだなと思う機会と本当になりました。

今まで各市町回られたと思うのですが、こういった市民との対話で、ご自身のビジョンとか浸透しているなとか発信しているなというご実感とかはありますか。

湯崎知事： ありがとうございます。

実は情報ブランド室というか、情報がなかなか伝わりにくいというお話がありました。まさに我々もそれを感じていることでして、このビジョンもいろいろな形で例えば市や町の皆さんが取り上げて、パーツ、パーツ入れ込んでいただいたりとか、例えば学校現場などでは、学びの変革とか進んでいて、そういうことをご理解いただいている皆さんもいらっしゃるのですが、なかなかこういうことをやろうとしているみたいなことが浸透しないというか、ご存知いただいていないというのが我々の大きな悩みなのです。

それもあって今回ビジョンを作ったときに、こういうのを各市町でやろうということ、今日は皆さんネットから御覧になっていただいていると思うのですが、ネットの力も使って多くの皆さんに、ぜひ見ていただきたいなということをやっているところなのです。

中野(友)： ありがとうございます。

湯崎知事： ぜひ宣伝してください。

中野(友)： そうですね、今日こちらに来る前にも SNS で、今日湯崎知事とお話させていただくと LINE、フェイスブック、ツイッター通してさせていただきました。

本当に貴重な機会ありがとうございます。

湯崎知事： You Tube で後からでも見られますので。

その他いかがでしょうか。梶山さん、お願いします。

梶山： ありがとうございます。

皆さんの御意見や考え聞かせていただいて、発表を聞かせていただいている間、鳥肌がずっと立ったままで非常に感動しました。

今回この会議に参加させていただくにあたり、知事の 17 のビジョンについての資料を見させていただいて、熟読させてもらったのですが、私が感じたことは率直に全てが、17 一つ一つの項目がどれかできればいいのではなくて、全てが連携しているのだなとい

うのを率直に感じました。

その中で今回この会議に出席される方々が、私は正直年配の方ばかり年配のおじちゃんがいっぱいいて、何か堅い感じなのかなと思っていたのですが、皆さん私と同世代であろう方々が集まっていたので、非常に大竹市の未来を感じたというか、先ほど市長がおっしゃられた謙虚な人が多くて「この町はつまらんのよ、何にもないんよ」という会話は私自身もしてしまっているのですが、そうではないのだなというのを非常に感じてうれしく思っています。

すみません、何かまとまってもないのですが。

湯崎知事：ありがとうございます。素晴らしいコメントというか御意見というか、そこに気がつくということが私は大事だと思うのです。

町の中にいろいろな誇れるものもあるし、歴史もあるけれども、人もたくさんいるということだと思うのですね。

実はずっと私は就任して10年以上になるわけですが、宝探しとかという名前で地域の皆さん、活躍している皆さんに集まっていたので、どんなことをやっているみたいなことを発表していただくというようなことも7、8年やっていたのです。

23の市町ぐるぐる回って、3回か4回くらいやったのですが、そこで出て来られる方、中学生とか下手すると小学生ぐらい、70、80の高齢の方まで、いろいろなことを取り組んでおられて、それは日常の中では、普通で見ていると見逃しちゃうかもしれないようなことなのですが、よく見てみるとそんなことをやっているのですか、それが周りに、いろいろなさざ波を作って、いろいろな人に影響を与えて、いろいろな連鎖反応が起きているみたいな、そんなことがたくさんあるのです。

そういう意味で、本当に住民の皆さんというか県民の皆さんの力が県の原動力だと思いますし、だからこそ私が県を作っていくのは県民の皆さんであり、あるいは企業の皆さんでありというのは、まさにそういうところで、本当にそういうことになっているのです。

今日もそういう発見を、もししていただければ本当にこれが大きな力であって、これこそがまさにビジョンを進めていく原動力になると思います。

それから相互に連携しているというのも全くそのとおりで、このそれぞれの分野、今、分野に分けていますが、やはり先ほどお話したように、何かある誇りというところの背景に教育というものがあったり、本当に有機的にそれぞれが結びついているのです。

それなので何かどれか1つやればいいのか、どれかだけが進んでいくという、もちろん分野によってうまくいくもの、うまくいかないものがあるのですが、全体がつながっているということ、すごく意識をして取り組んでいかなければいけないなと思っています。

梶山：ありがとうございました。

湯崎知事：ありがとうございます。

その他何かございますか。それでは順番に河内さん、高橋さんで。

河内：先に回していただいて、ありがとうございます。

今回のビジョンというところで、10年後、30年後ということでビジョンを掲げられていると思うのですが、正直言えば今ばかり気にしていて、どうしても将来のことって全く考えられていなかった中で、こうやって皆さんの御意見をお聞きして、何かすごく自分の考えが不安な部分があったのですが、やはり行き着くところは一緒なのかなというところ、すごく安心しました。

基本理念にもあるのですが、将来にわたって広島に生まれて、育ち、住み、働いて良かったと心から思える広島県の実現という基本理念があるかと思うのですが、基本理念出た時点で私達成している。

本当に広島、大竹大好きなので、それがこの今日いただいた、皆さんが出していただいた御意見でもっと良くなるようになったら、更にすごく楽しみになってきました。以上です。

湯崎知事：ありがとうございます。

確信を深めていただいて、それが本当に皆さん気がついていなかったりするので、先ほど言ったように、いろいろな活動している人がいらっしゃるのですが、玖波公民館などもそうですよね、普通にただ玖波公民館に通っている人が、ここは日本一だと多分意識しなかったと思うのですが、気がつくともよくよく見るとそうだったとか、そんなことはよくあると思うので、それをみんながいろいろな形で共有できたら素晴らしいのでは

ないかなと思います。

高橋さん、お願いします。

高橋： いろいろとお話があった中で、中野友博さんの情報に特化した部署を作るというのがあったと思います。

それで今この会議の場も、こういう話がされているという情報共有だったり情報発信をどうすべきかと考えるのですが、今情報というのは、受動的に情報を受ける人が大半だと思うのですが、そうするとこれだけ個人が自由にいつでも情報発信をする中で、大量な情報に埋もれてしまって、どれだけ有用な情報を発信して、どれだけ効果的に発信しても、今後新しい手法が出てきたりすると、なかなか個人とか1団体でそこに立ち向かっていくのは難しいのではないかと考えております。

我々も青年会議所として情報発信は非常に手掛けているのですが、それと同時に情報を漫然と受ける側にお勧めとして出てくる形ではなくて、これからの時代は情報を取りに行く、本当に必要な情報を取りに行くというところが大事になるのではないかと思います。

それが先ほどの情報リテラシーという話にもありましたが、教育にもつながるのですが、大量に不要な情報がある中で、どうやったら有益な情報を取りに行くかということが、しっかり確率できれば、特に行政は有用な情報をしかないとしますので、そこは非常に強みがあると思うので、伸ばしていくというのも1つの手なのではないかと思っております。

それなので先ほどの情報特化の部署というのも、情報を発信するというのに加えて、どうやったら情報を取りに来てもらうか、今日フェイスブックに載せるという話もありましたが、情報を取りに来てくれる方いっぱい来れば、その方からまた新しい情報が回ってくるというところもあると思いますので、これ以上の案は出てきませんが。

ありがとうございます。

湯崎知事： ありがとうございます。

情報を取りに行く姿勢というか、このマインドというか、常に受け身じゃなくて、それは例えば挑戦をしていくことと、つながるのではないかと私は思いますが、何か1歩前に、何かあれっと思ったときに自分が行動していくとか、1歩前に出ていくということが、多くの方が実践していただけると、とても大きな発展にそれがつながっていくのではないかと思います。ありがとうございます。

入山市長、実はそろそろ時間になってきたのですが、最後に何かまた踏まえてコメントなどございますでしょうか。

入山市長： 今、高橋さんがおっしゃられたところで、行政で一番悩んでいる部分ですね、何を情報発信していくのか、何を大切にきちんと守っていくのか、その辺のやり方をどうするかということ、非常に苦労しているところでございます。

例えば議会に全部情報公開できるように、見られるような形にしても、そこにアクセスしてくださる方が本会議でも100回程度、広報誌ほとんどの市民の方が読んでくださらない。

ホームページ非常にアクセスする数が少ない。

このことについて、今からどういうふうなやり方があったらきちんとできるのかな、その辺は皆さん方の御意見をしっかりといただきながら、やっていかないといけないかなと思います。

ぜひ、いろいろなところへ出てきていただきたい、どんどん意見を発信していただきたい、そのように思いますので、よろしくお願い申し上げます。

湯崎知事： ありがとうございます。

そろそろ時間になりました。

最後にこれだけは言い残して帰るのは嫌だなというのが何かございましたら。

それでは中野友博さん。

中野(友)： ありがとうございます。

湯崎知事、本当に貴重な機会を、こう緊張感のある場で御意見させていただく機会を本当にありがとうございました。

最後に、今日YouTubeで配信されていらっしゃるということで、大竹市は若い元気のいい青年経済人がたくさんいます。

本当に明るい未来に向かって活動する、先ほど市長もおっしゃられましたが、人がたくさんいる町だと思いますので、これからも頑張っていきたいと思っております。

よろしく申し上げます。
湯崎知事： ありがとうございます。
私に変わってまとめをしていただいたようで、決意をお伺いできました。
ちょうどお後もよろしいようで本日時間となりましたので、今日はこれで締めとさせていただきます。
皆さん本当に長い時間ありがとうございました。

閉 会

司 会： それではこれを持ちまして「ひろしまの未来を語る in 大竹」を終了いたします。
本日は御協力いただきまして、誠にありがとうございました。